

# 町報 岡垣

所 役 者 田 順 一  
行 町 任 深 所  
岡 垣 町 長 印 刷  
有 限 公 司 大 和 印 刷 所  
電 話 ( 宗 象 ) 2272 番



## 地籍調査事業

昭和四十五年度

国土調査法に基づく地籍調査事業を昭和四十五年度は岡垣町大字黒山と、大字吉木七、五〇〇年を實施します。地籍調査事業とは現在の土地の状況を調査測定し、その結果に基づいて新しく地籍簿(土地台帳)及び地籍図(字図)を作成するものです。この調査は田畑、宅地等の外に道路用水路、溜池等すべての土地について行いますから、その各々の土地の境界を明確にすることが必要です。黒山、吉木に土地を所有して居られる方は隣接土地との境界は現地で確認出来るでしょうか。

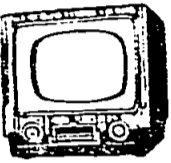
又その境界は隣接所有者と相互了解の上のものではないか。若し現地に境界を明示する境界杭がなく、お互いの境界を確認しておられないようでしたら、直ちに隣接所有者と協議の上、境界杭を設け、境界杭を設

置して下さい。調査は土地の一年一筆について行いますが、地目変更や合筆分筆等の土地の異動がある場合は現在の状況と訂正することになっております。岡垣町役場企画課に問合わせ下さい。

## テレビラジオ受信料半額免除

昭和四十五年四月一日より、テレビ、ラジオの受信料免除基準の一部が改正され、射撃場周辺の受信料が半額免除になりました。岡垣町に於いては全境(上畑地区の一部を除く)がこの適用を受けますがこれも全町民等々の運動の結果であるものと御同慶に堪えません。

ついでに四月二十五日迄に各区分より提出して頂いた分の免除申請書を一括しより申請の手続きを完了しておりますが、その後(四月二十六日以降)の新規購入者



## 文芸欄設置

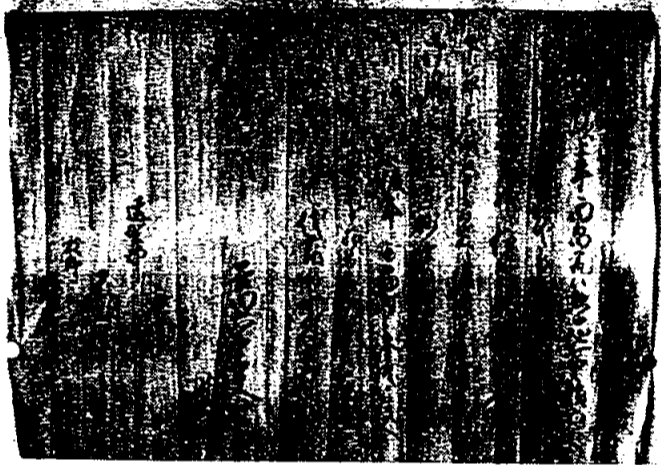
この町報から文芸欄を設けます。短歌、俳句のみ岡垣町公民館に投稿下さい。

## 軽自動車等の届出

●モーターバイク・軽自動車等の届出がいつまでもか車等を転売や廃車処分をしようとする方が増えています。●輸入、転出等で住所を変更した場合は、所有権者氏名の変更を、必ず届出をせずに更替した場合、変更届を出さずして廃車をしても、他町村等に転出される時は必ず届出を返納して、転売したり、下取りに出してはいけません。(税務課)

## 防風保安林の保護

防風保安林は農作物の保護、又生活手段のみならず、安楽な生活を送る上でも、岡垣住民にとって生命線となり、今日迄先祖の方々があらゆる手を尽くし、育てられて来た防風林保護のため、莫大な経費をこぎ、植樹をしておるのに、最近の松食虫による被害に合せ、家庭ボンサイや庭木等に趣味を持つ方が



元文三年の防風保安林保護のお墨付

## 岡垣町道路占用料徴収条例 並びに河川管理条例制定

このたび道路占用料徴収条例並びに河川管理条例を制定し、昭和四十五年より施行いたします。この目的は今まで町道の

## 行政機構改革について

社会情勢の進展に対処するに当り、此の度、企画振興課を新設致しました。次の事務内容により執行します。

一、町勢振興及び地域総合開発に関すること。  
二、国土調査に関すること。  
三、公共事業の用地交渉等に関すること。  
四、事務改善に関すること。

## 役場職員移動

昭和45年4月24日付で次のとおり人事移動を完了したのでお知らせします。

新 氏名	旧
民生課長 小早川隆	教育課長 花田申三
東部出張所長 安部市郎	産業課長 宗岡隆
住民課長 石田三次	町長室付 産業課長 太田美代子
税務課長 門司文敏	民生課長 藤井和保
教育課長 高橋護城	住民課長 石田親
産業課長 小早川隆士	税務課長 花田芳枝
企画振興課長(企画係長兼務)	住民課長 神屋守正
日南 誠	企画係長 住民課長 宮内実生
町長室付(課長待遇)	住民課長 藤崎宏
刀根重弘	総務係長 住民課長 藤岡朋子
吉田利種	住民係長 住民課長 藤岡朋子
会計係長 安部正明	東部出張所長 住民課長 石田登子
経済係長兼務 中川 隆	振興係長 住民課長 石田登子
水道係長	教育委員会 住民課長 石田登子

## 議会だより

第二回臨時議会は四月二十一日招集、会期は一日と決定、次の議案が原案可決となる。

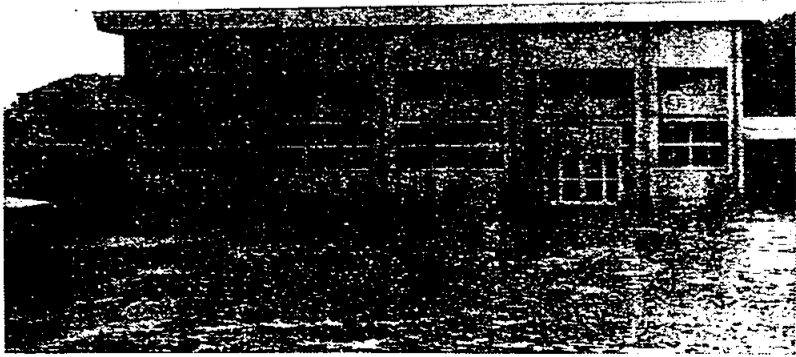
- 岡垣町設置条例の一部を改正する条例。
- 岡垣町職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例。
- 中間市道賃借部老施設組合規約の全部を改正する条例。
- 岡垣町役場庁舎位置の選定委員会設置条例を廃止する条例。
- 岡垣町役場出張所の仮事務所を定める条例を廃止する条例。
- 岡垣町生活資金融通条例を廃止する条例。
- 庁舎建設特別委員会の解散承認。
- 報告事項

## 戸切小学校「講堂」郡内で初の鉄筋防音改築工事完成!!

戸切小学校が旧所在地から現在地に移転されてから講堂は旧校舎の場所にあつて非常に不便を感じていたのであるが、このたび町当局、町議会、防衛庁の御協力により見事な防音鉄筋改築の講堂が完成、四月十四日現地で落成式が厳しく取り行なわれた。

総面積五〇九坪で内訳は講堂四二〇坪。

(教育委員会)



## 社会福祉協議会へ 香典返しとして寄附

戸切区	故石田敏雄	昭和四十五年四月十八日死亡
八十三才	藤岡朋子殿より寄附	元松原区 故広瀬新治
	石田武殿より寄附	昭和四十五年四月十八日死亡
	上海老津区故深澤要人	六十九才
	昭和四十五年四月七日死亡	
	篠崎松子殿より寄附	六十八才
	山田区 故坂本カズエ	昭和四十五年四月八日死亡
	坂本実殿より寄附	三三才
	三三才	故藤岡和伴
	三三才	占部三郎殿より寄附

# 思いのま

● 葉根譚(さいこんたん)  
 という支那現代の本に「真理を守る人は、さびしくも一時、権力にへつらえは末代の名折れ。」

● 権力は物にとらわれず無き後のわが身をもつ。いつか一時はさびしくも、末代名折れのまねをすまいぞ」とか「仲間ほめより、世論に味方せよ。新規の友より昔なじみが良い。名を売るよりかげで、名をすくすくし」

● 「老後の病氣はすべて若い時の報い。下り坂の災はすべて盛んな時の罰。だから張り切った時こそ人間性に用心がいらねえ。日常生活の心得が教える。無(空)にならねえ。必ず何かが入ってくる。一杯つめてこんで世を渡る」の言葉は私の懐れ込んでいる聖句です。

● 「すべて思想と呼ばれるものの根源にあるものは、自己肯定と自己否定との格闘である。」

● 神や仏を求めるとか、求めないで済ませるか、その対決であり、それをめぐっての肯定と否定の戦いである。この点で思いつめた経験の有無が、我々の思想を決定する。これを念頭に置かないで思想という言葉を使ってはならない」と亀井勝一郎先生の「思想は花びら」という本で読んだ。

● 同書に「ある宗教を信ずることによって盲目になる人がある。盲目とは愛においてそうであるように、一個の幸福にはちがいない。然し对人的には恐るべき幸福だ。狂信とはこの幸福の自己陶醉の状態であり、同じ陶醉を他人にも強制すること、それは暴力と化する」とある。こんな先輩の深い思索や体験からしみ出た言葉は、テレビ病にとりつかれ、レジャーにまよわされて、静かに思いを注ぐ時間を作り得ない人々への功德水である。

● 新中国は先日世界第五番目の人工衛星打ち上げ國となった。

● 懸念に科学を取り入れ、文明國家への努力を進めている。従って外國へ手を出さずより自國の建設がいそがしい。封建思想の若人では役立たぬから文化革命という國民運動をやっている。

● 所が不思議なことが一つある。國費をもつて東洋四千年來の旧式と思われ修養法・静坐法を行なわせていることである。産婦人科學會のなぞとなつて無痛産産などは、この所産である。

● 物質文明と共に精神科學を忘れていない所に恐るべき將來の中國があるわけである。

● 昔の人は腹を作れ、肚をすえよ、丹田に力が入ってない、まず坐れなと言つて人格・精神・修養を心がけた。静坐は坐禅である。坐禅とは坐つて禪(静かに考へるといふインド語)するから坐禅といふので、僧の専門用ではない。坐るとは東洋人の特長であり、東洋文化の根源であるといつても良い。

● まず坐つて静かに考へてから何でも仕事をやつてこらんさい。勉強でも、始めに姿勢を正して坐り、やめるべきこと、これからの順序を静かに考へ、五分でも三分でも黙想正念してからやつてこらんさい。思いもよらぬよい考へや知恵がわいてくるのです。初めに述べた葉根譚の言葉、亀井先生の言葉、それが静坐黙想によつてあなたのものとなる。朝、仏前でもよし、夜は床の上でもよし。丹田にうんと力を入れて、静かに長く呼吸するテクニックを覚えれば、あなたの血圧が下り、胃腸や肺の病氣も治るといふ東洋獨特の精神と肉體両面の健康法がで

● 五月三日の朝日(日曜版)を見て下さい。新葉の効き目がどんなかわかりません。人間の心ほどよき葉はないことを教えています。

● 車の運転者や神経過敏の人に胃腸病が多く見られるのは丹田の訓練が不足しているからです。新中國がこの美点東洋の人間哲學を忘れていないことはすばらしいことです。

● 精神文化の低い所には常に不幸と心配不安がついて廻ります。我々は片目で物を見ないようにしたい。

● 亀井先生の言われる思想を持ちたいものです。九大の心療内科は葉なしの治療をしています。

● 國民が平和で健康な社會を作るには物心両面のバランスのとれた人になることです。政治も教育も宗教もバランスが保たれていない気がする。

● 他人事ではない吾々の同胞です。貴殿も拙者も國民です。

● お互いに人間を大切にいたしましょう。

● (男)の世帯主(主婦)の男の子青年(女子)青年少年少女の五つに部落住民を分ける。そして町政、農業(畜産園芸等)文化(教育・修養・体育)その他を年間計画をたてて五グループ毎に集會を行なうことによつて町民の意志を町政に反映し上下意を通ずるといふ公民館活動が町が立案すべきである。住み良い町、明るい町は協力話しあいの中から生まれる。

● 無知無関心無方針では発展はない。政治は町民の意志を行使する代表である。お互いのまかせせつ放しは無責任な態度である。右は町を中心とする公民館活動の和の夢である。

● 吉木 鷲尾垣見

## 町民体育祭順位

● 四月二十六日久しぶりの町民体育祭を実施する

- 五千米マラソン
  - 門司第二 一七分〇〇
  - 大庭 博 一九、二九
  - 小淵川祐一 一九、三九
  - 旗生 一、九、四三
  - 瀬戸、神谷、荒木、小田
  - 五百米競走
  - 小淵川祐一 五分二二
  - 荒木 重 五、二六
  - 岩在英信 五、二八
  - 友納勝利 五、二九
  - 山田 豊
  - 山田光吉 五、五三
  - 石田寛治 大久保正明
  - 米倉正二、辻 芳和
  - 月成庄造、門司英文
  - 百米競走
  - 釜本 清 一三、一
  - 河野和博 一三、二
  - 梶谷 一三、三
  - 早川 一三、四
  - 五かで競走
  - 一組一位 波津
- 二組一位 吉木
- 三組一位 元松原
- 四組一位 手野
- 走高跳
- 河野、小淵川、入江
- 旗生、石木、野中、中島
- 走巾跳
- 二村 四米九五
- 宮内 四、五七
- 細川 四、四五
- 早川 四、三〇
- 砲丸投
- 石田文敏 一、一八三
- 石田宗敏 一、一一一
- 入江 溜 一〇、五六
- 神谷則久 一〇、一五
- 山崎泰路 九、九四
- 早川達生 九、四七
- 小学生各区分別
- 一位波津 二位鷲塚
- 三位吉木A四位戸切
- 五位元松原六位三吉岡地
- 各区分別(男子)
- 一位鷲塚 二位野間
- 三位百合ヶ丘 四位戸切
- 五位高塚 六位新裕老津

## 六月の園芸

● 草花のさし芽  
 キク、ゼラニウム、レックスベゴニアなど、さし芽のできる草花は大変多い。気温も温度もちょうどよいので、発根も早く、さし芽するにはよい時期

● 芝生の病氣  
 芝生にサビ病が発生するから、上旬に石灰硫黄合剤を二〇倍か、ホルデー液を散布しておく。

● ウメの収穫  
 中下旬にウメの収穫。樹木の下にシロロなどを敷き、竹でたたきおとす。

● カキの害虫駆除  
 ヘタムシは下旬からヘタと実の間に潜入、落葉をひきおとすから、DDT乳剤五〇〇倍液を散布する。

● ハナシヨウブ株分け  
 房のつきすぎたものは枝の差を考慮して間引く。



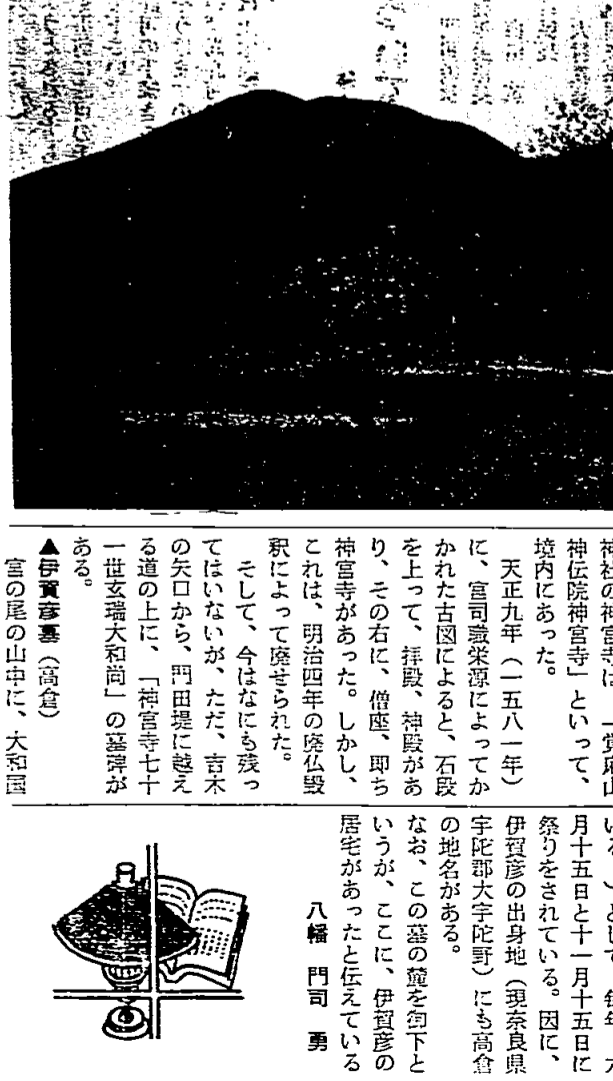
● 七位波津 八位西黒山  
 ● 各区分別(女子)  
 一位新海老津 二位高倉

## 岡垣風土記

● 高津峯(高倉)  
 「道賀郡誌」に高倉の東南にあり、山麓馬場より絶頂へ五町余、險阻茅立なり。山上少し平地あり。昔、大倉主命、菟夫羅媛二神、天降りましし地なりと云う。

● 神宮寺(高倉)  
 昔は、古い神社には、たいてい神宮寺があった。これは、神仏習合によつて生れたものであって、神社の境内か、離れていても一〜二軒以内の距離にあった。そのよい例としては、近くは、宗像神社とその神宮寺であつた鎮國高倉寺であらう。

● 伊賀彦(高倉)  
 宮の尾の山中に、大和園



## 読書のすすめ

● 岡垣町役場の三階、教育委員会及び東部出張所に図書室を置き、文学全集や新刊書をそろえています。一週間貸出し出しをして利用下さい。

● かんばつ(やま)といった。この神奈備の意義について「道賀郡誌」には、「二つは、神並び、或は、神祇の転訛であらう。

● また、神隱(なま)いからきて、神の籠る山という意味の古語であらうともある。

● また、全国の神奈備山を調査された大場宗雄氏の説では、いつれも、山容が円錐、または、笠形をした孤立峰であり、部落に近い平野に聳えている。そして、山麓には、必ず、古い神社が鎮座している。

● なお、この高津峯の名義については、「撰津風土記」に、難波高津は、天稚彦天下りし時、天稚彦に属し下れる神、天探女、岩船に乗りこころに至る。

● 天岩船の泊る故を以て、高津と号すといふ」とあるが、これも、やはり、そういった意味の山名である。

● また、これは、早天の時に天孫降臨の神話にもあるように、古代人は、神がこの地上に天降りする時は高山(或は、巨岩、樹木)を依代(よりしろ)とする」と信じていた。そして、そういった山を、神奈備山(

